

氏 名：山本 真実
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 224 号
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 鈴木 美穂（聖路加国際大学教授）
副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）
副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）
副査 小黒 道子（東京医療保健大学千葉看護学部教授）

論 文 題 目： Effectiveness of an Educational Program for Clinical Educators
to Promote Novice Midwives' Clinical Judgment: Cluster
Randomized Controlled Trial

博士論文審査結果

本研究は、新人助産師の分娩時の臨床判断能力強化に向けた臨床指導者のかかわり方を示した教育プログラムの効果を検証するためのクラスターランダム化比較試験である。協力の得られた対象施設をランダムに 11 施設(44 名)を介入群、10 施設(33 名)を対照群と割り付け、教育プログラムの Primary outcome として臨床指導者の教育スキル、Secondary outcome として知識と態度を測定したが、知識は介入群において有意に向上したが、教育スキルと態度には影響がなかったとしている。

本研究の論文審査会は 2022 年 1 月 13 日に Web 会議方式で実施された。統計学的に有意な効果は認められなかった結果を誠実に記述しているが、その結果をどう解釈するかや、コロナ禍での教育プログラムの実施の実際、今後への示唆など、考察を深める余地があるとして、主に次の点に修正を求めた。

- 1) コロナ禍での実施となったことに伴い、研究計画と実際の実施方法の変更点を記述し、その事実を踏まえた考察をすること。
- 2) 対象者の特性を踏まえた考察をすること。
- 3) Primary outcome と Secondary outcome で整理するなど、方法と結果との整合性のある見出しを立てて考察すること。
- 4) 今後への示唆として、プログラム自体や評価の時期、フォローアップの視点などからより具体

的に記述すること。

2022 年 2 月5日に提出された修正論文において、上記の点に関して適切に修正されていることを審査員で確認した。

本研究の新規性・独自性は、これまで助産学分野においては新人助産師の実践能力向上のための臨床指導者に向けた教育プログラムがほとんどなかったところに、当該学位申請者が文献検討や予備研究を通して独自性の高いプログラムを開発した点、クラスターRCT にてプログラム検証を目的とした点、コロナ禍での実施となったことにより、オンラインでの実施可能性を評価できた点にある。論文は英語で書かれ、献身的に学位論文作成に取り組んだことが伺えた。なお、本研究の基盤となる修士論文、予備研究は、すべて投稿を終え、着実に研究活動を進めてきたも高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。